

大和ミュージアムの近くには戦時中の呉市な
どを舞台にしたアニメ映画のキャラクターの
壁画も見る事ができました。大和ミュージ
アムの中は、戦争当時に使われていた軍艦一
大和の模型や実際に使っていた服、防災頭
巾、靴、水筒などの資料や原爆症の少女の日
記もあり、戦時中の光景が感じられるものば
かりでした。その中でも、僕が一番印象に残
っているものは人間魚雷に乗った兵士のこと
です。この人間魚雷は兵士一人しか乗れない
魚雷に火薬をつめ込んで、操縦しながら目標
とする敵艦に体当たりする特攻兵器です。そ
の兵士が最後に家族へ送った別れの肉声を聞
いたとき、僕は目頭が熱くなりました。その
他にも、戦艦や兵器についてたくさんの展示
を見る事ができました。大和ミュージアム
では、戦争という悲劇を感じる事ができ、
広島に寄ってよかったと思いました。
広島を後にして、長崎に着いた翌日、平和
公園へ行きました。平和公園に着いて最初に

気づいたことは、駐車場の前の崖下に、いくつもの防空壕があったことです。金網が張られていました。中は狭く暗い場所でした。戦時中はこの防空壕に避難していたことを想像すると、とても怖くなりました。平和公園には銅像があると聞いていたので、丘の上に行きました。すると、上がった先には、濃い緑色の銅像が目に入りました。銅像はとても大きく、座って手で何かポーズをとっています。した。右手は上を指し、左手は横に開いて、目を閉じていました。僕はその銅像のポーズにどんな意味があるか興味がわき、台座の裏に刻まれている言葉に目がいききました。この銅像は、長崎出身の彫刻家の北村西望さんが作った「平和祈念像」であり、「右手は原爆を示し、左手は平和を、顔は戦争犠牲者の冥福を祈る」と、そこには書かれています。また、平和祈念像の前には「平和の泉」という噴水があり、原爆により焼けたただれ、水を求めてさまよった被爆者たちのために作られ

たものでした。その他にも、世界中から送られた像や石碑がたくさんあり、その一つ一つに悲惨な戦争を繰り返さないという誓いと平和への願いが込められていると感じました。世界ではまだ、核兵器を持っている国は少なくありません。そして、紛争が続いている国もあり、そこでは多くの人々が犠牲になっています。僕は、大和ミュージアムで聞いた日本兵の肉声や平和公園で見た銅像など、今でもはっきりと覚えています。そこで感じたことや学んだことは、これからも何一つ忘れてはいけないことだと思いました。そして、原子爆弾などの核兵器によって起こる悲劇について、世界中の人々にもっと知ってもらいたい、平和な「核なき世界」になってもらいたいと思います。